

新年明けましておめでとうございます。さらなる絆の年になることを願っています。ボランティア特集も5号発行になります。第4号で予告した11月19日にバスボランティア第4弾として石巻市牡鹿半島の3つの地区で活動した内容を中心に報告します。まだまだボランティア活動が必要なこととボランティア活動の内容も変えていく必要性を考える一助にいただけると幸いです。



龍 JIN マスコット

皆様に共感していただき今まで以上の応援及び支援が頂ければ幸いです。できるならば私達龍 JIN の活動の輪の中に入って共に活動されることを願っています。

募金シール活動へのご協力に対して、この紙面を借りて感謝申し上げます。

ありがとうございました。これからもご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

平成23年11/19(土)石巻市牡鹿半島バスボランティア第4弾

平成23年11月19日(土)、バス使用のボランティア活動第4弾として高校生17名を含む56名が、マイクロバス1台と那須烏山市福祉バス1台で石巻市牡鹿半島の3つの地区に行き、活動してきました。

当日はam3:00に市役所を出発し、被害の大きかった石巻市渡波地区もかなりきれいになってきたことを感じながら9:10頃、最初の活動場所である鮎川小仮設住宅に到着。たくさんの支援品や活動器材と共にメンバー15名が降り、残りのメンバーは鮎川ボランティアセンター(VC)に向かいました。9:30に2番目の活動場所である鮎川VCに到着し、そこでメンバー28名が降り、残りの12名はマイクロバス1台で3番目の活動場所である泊浜地区に向かい、10:00過ぎに到着しました。

以下に各地区の活動状況を報告します。



今回の活動実現の背景

今回の活動は、10月8日及び10月22日に龍 JIN メンバー有志で牡鹿半島に米、衣類、自転車、畳等の支援物質を届けながらボランティア活動のミッション(使命)調査を行い準備してきたことが実現したものです。

具体的には以下の3活動です。

①仮設住宅集会所での交流会活動

鮎川小仮設住宅では談話室でバッグ作りなどサロンのな交流会活動が始まっており、先生役の派遣を含めた支援活動をお願いされました。本活動の目的は、

仮設住宅に閉じこもりがちになってしまう方々を仮設住宅談話室(集会所)での各種交流会活動に参加してもらい元気になってもらうことにあります。牡鹿地区に仮設住宅が8カ所ありますが、交流会活動が実施されているところは極めて少ないと聞きました。

那須烏山市他在住の人脈を駆使し先生役を探し、裁縫教室(菱沼美代子さん)、料理教室(望月千登勢さん)、ストレッチ教室(益子篤子さん)、歌声教室(岡倉ゆかりさん)の4教室を楽しく実施することにしました。

②鮎川地区の家の片付け or ガレキ処理活動～鮎川VC指定の場所での活動

まだまだ牡鹿半島は家の片付け or ガレキ処理が手つかずのまま残っており、多くの人にボランティア活動を体験してもらいたいという龍 JIN の思いがあることから、地元烏山高校を含め今回もネットで一般参加者を募集することにしました。

③現地の皆様とボランティアと一緒に実施する炊き出し及び交流活動

泊浜地区では家の流出数が少なく仮設住宅未設置地区となったが、納屋などを改造して住んでいる家があるなど、未だ炊き出しが必要な地区です。被災された方から、家屋流失した家ばかりでなく、泊浜地区全体の交流を図る意味でも是非活動を実施して欲しいと要望されました。

そこで、泊浜地区の区長さんと相談して地区の皆様とボランティアと一緒に炊き出し及び交流活動を実施することを決め、ワインを飲んで大いに盛り上がりうと実施する前から楽しい雰囲気になりました。

④その他、現地の経済支援活動～現地待望の仮設店舗を応援しよう

11月18日、鮎川地区待望の16の仮設店舗が開店しました。龍 JIN では本計画の中心的役割を果たしてきた鮎川小仮設住宅区長である古内さんのお寿司屋さんなどを応援してきました。今回のボランティア活動では積極的な応援計画を立てました。具体的には、ガレキ片付け班の活動場所を仮設店舗から近い場所にしてもらい昼食に古内寿司をいただくという計画です。本計画では夕食用に希望する人も殺到し、参加者56名中47食もの申し込みがあり、とても喜んでくれました。また、泊浜の焼きそば炊き出しの食材も仮設店舗の南国フルーツさんから購入しました。但し、焼きそば麺は地元烏山の麺が日本一ということで、これだけは持参しました。

さらに嬉しい心遣いが加わる

今回の活動も、前回以上の嬉しい心遣いが加わり、前述の4つの教室活動を含め市内各団体をどんどん巻き込む大きな力を感じました。

◆一つ目は、那須烏山市「生きがいの郷」の皆様から仮設住宅の皆様へのプレゼントです。手編みの帽子、マフラー及び激励メッセージ付クッション座布団40セットに子ども用帽子、マフラーも編んでありました。

また、大きな模造紙に可愛い絵付の応援歌も作詞しました。

さらに龍 JIN と来年の干支を考慮した「龍の背で復興誓う底力」のメッセージ入りの布押し絵の力作には圧倒されました。



被災地に帽子やマフラー 那須烏山の手芸愛好者ら(11月19日下野新聞)

「生きがいの郷」代表の長岡さん(85)から、今回の活動はとてもやりがいがあり楽しかったと、逆に龍 JIN にお礼を言われたことがとても嬉しかったです。今回のプレゼント活動については下野新聞にも紹介されました。

◆二つ目は、地元婦人会のおにぎり他の差し入れです。

am3:00の出発に合わせて、婦人会有志で56名全員分のおにぎり、漬け物とりんごのレモン漬けを作って駆けつけてくれました。



柳田婦人会長他から3時の差し入れ



バスの中でおにぎりを配りました

前回の龍 JIN 定例会議に参考出席し情報交換をしていただいた縁で今回の差し入れになりましたが、こんな時間にもかかわらず間に合わせていただいたことと120個以上のおにぎりを準備できる婦人会のパワーを感じ、とても勇気付けられました。ありがとうございました。

◆三つ目は民生委員会他有志で被災地の要望を聞き、冬物衣類の募集活動が始まったことです。とても多くの衣類が集まりました。



途中の荻浜に衣類を届ける。龍 JIN 堀江さんから江刺さん宛ての手紙も添えて



鮎川小住宅に衣類等多くの支援物資を運んでいる様子

◆四つ目は料理教室でロールケーキを作る際に必要な電動泡立て器2器を寄贈してくれる方が現れるなど支援の輪が確実に広がっていることです。当日の朝、参加メンバー有志で自主的に準備した豚汁の炊き出し食材や、各種支援物質・器材等では一時はバックアップ車を検討する程の荷物詰め込みに大わらわでした。

鮎川小仮設住宅集会所での交流会活動

10月22日に届けた畳を敷き詰めた集会所で裁縫教室(菱沼美代子さん)、料理教室(望月千登勢さん)、ストレッチ教室(益子篤子さん)、歌声教室(岡倉ゆかりさん)の4教室を実施しました。参加者は牡鹿地区に8カ所ある仮設住宅から6カ所の約20名が集まり、午前中に指先なし手袋の編み物教室とロールケーキの料理教室を、どちらも体験できるようにしました。そして休憩時に、ヨガ教室を開講している益子さんに楽しいストレッチ体操を覚えてもらうことにしました。



さすが！ヨガ教室の先生で



ストレッチ教室の様子

「愛燦々と」の曲に乗って優雅にストレッチする場面では、参加者から忘れないようにビデオに撮ってyou tube”にアップしておいてくださいとリクエストされるほどでした。

ロールケーキ作りは、仮設住宅に設置された電子レンジにオーブン機能が付いているものの「レンジはお父さんのお爛しか使ったことがないので使い方を教えて欲しい」との声に応えたものでした。



料理教室(ロールケーキ作り)



食べることが楽しみという人もいましたが、可愛らしくプリントしたレシピを参考に、クリスマスにさっそく作ってみたいとの嬉しい声も聞こえました。

手袋編みは短時間にもかかわらず何人もの方が完成させることができ、用意した手引書を見ながら満足げな顔が印象的でした。



裁縫教室(指先なし手袋の編み物)



心がひとつになった歌声教室



午後からの歌声教室は圧巻でした。やはり歌は心に染み入ります。午前中の各教室実演中もバックグラウンドミュージックを奏で続けていた岡倉さんを中心にした4人の歌声も素敵でしたが、参加者全員で歌う歌には勇氣百倍の力がありました。全員で最後に歌った「ふるさと」は綺麗な涙と共にみんなの心を一つにして、被災を乗り越える大きな力を感じるものでした。

参加者の感想を紹介します。

現地の皆さんは「このような交流会をずっと待っていました。とても充実していて良かったです。今年中に必ずもう一度来てください」と多くの方が言ってくださいました。

先生役の声は「みんな一生懸命取り組んでくれ、短時間だったので今度は体操教室だけでもまた来て欲しいと言われ、とても嬉しかった。ぜひ機会があればまた来たい(益子篤子さん)」、「ケーキ作りは自分たちで作れるように工夫したが、何人かの方がまたやりたいと思ってくれてほっとした。手伝ってくれたメンバーも楽しかったと言ってくれた。帰りのバスの中の交流の場は素晴らしかった(望月千登勢さん)」、「指先なし手袋が好評だったことと皆さんに喜んでもらえて良かった。少し遠いけれどまた来てみたい(菱沼美代子さん)」、「午前中の教室で打ち解けた雰囲気できていて

とてもやり易かった。何人もの方からリクエストがあって嬉しかった。現地の皆さんから元気と優しさを貰えた。こんな機会を作ってくれた龍 JIN の皆さんに感謝したい(岡倉ゆかりさん)」。

以上、今回の目玉活動として働き掛けた交流活動は参加した皆さんの心に残る、チーム龍 JINらしい活動になったと思います。

鳥山生きがいの郷から贈られた唄と龍の押絵と共に1班活動全員で笑顔のポーズ～次の再会を約束する記念の写真です



鮎川 VC 地区ガレキ片付け班の壮絶な活動

27名3班で実施したボランティアセンターから至近距離の活動は、震災から8カ月経過しているにもかかわらず手つかずの場所でのガレキ処理でした。初めから小雨降る中、各班リーダーが率先して動いてくれたことと若手・鳥山高校の働きと大人たちの見本となる働きは抜群でした。

さらに紅一点参加の茂木校女子生徒は「こんなの平気よ」とさすがに柔道部と思わせる活躍でした。充実感は今までの活動の中で1番と思われる仕事の最後は、二階建ての納屋に高級車がもぐり込んでしまい、傾いたままになっていた建物の取り壊し作業を、屋根に登ったりロープで引っ張り倒したりの壮絶な作業でした。

終了した時には泥だらけ、簡易の雨ガッパはボロボロでした。

大変だったと感想を話す中で震災直後のボランティア経験者からは、この程度は驚くに値しないと当時の経験を話され、今回の震災被害の大きさを改めて感じた活動でした。

そうは言ってもほとんどの参加者がすごい活動だったと感想に書いた通り、まだまだ牡鹿地区には初期のボランティア活動が必要な場所があることを改めて知らされた活動でした。鮎川 VC のスタッフは、このような状況に対して年末年始を除き、真冬においてもやめる訳にはいけないので来ていただけるボランティアの皆様がいる限りガレキ処理活動は続けたいと言ってい



機械が入らない場所に溜まっている家屋流失後のガレキ処理(こんな場所がたくさん残ったまま)



屋根をロープで引き倒し、中に埋まっていた車が現れた場面

たことが頷ける現実でした。

昼食に美味しいと言って食べた今回の目玉活動である古内さんの寿司弁当も余り話題にならないほど厳しいガレキ処理活動でした。

家屋取り壊し作業後の疲れはあるものの満足感で「どうだーっ!」のポーズ



泊浜地区炊き出し及び交流活動班

鮎川 VC で開店したばかりの南国フルーツさんから焼きそばの食材を受け取り、道路事情からマイクロバス1台12名で泊浜地区に向かい、10時過ぎに旧泊浜小学校を改造した集会所に到着しました。

今回参加した梨の選果場の皆さんが豚汁の炊き出しを準備してくれたことと、金子農園さんと小池農園さんから梨の差し入れがあったことでちょっと豪華なメニューとなりました。

また、佐藤アイ子さんから乾燥野菜の提供があり、皆さんに配布し大変喜んでもらいました。

さらに黒川副キャプテンの弟さんから赤白ワインの提供があったことで泊浜の皆さん約60名参加の交流会はとても和やかな雰囲気となりました。

龍 JIN メンバーとして参加した12名は泊浜の皆さんと積極的に話をし、これからもメール等で交流したいなどと

話が進展し盛り上がっていました。松川区長が「このような楽しい炊き出しは本当にありがたいし、とても嬉しい」と何度も言ってくれたことで、泊浜の皆さんの元気を取り戻すお手伝いのできたのではないかと思います。



事前に準備した食材や器材も問題なく、炊き出しが順調に進む調理室



松川区長の笑顔も最高でした



話に花が咲きました



心を込めた炊き出しに泊浜地区の皆さんも満足してくれました



ワインを添えて和やかな雰囲気交流会





松川区長の熱烈なお礼の握手
心温まる交流会になりました



泊浜地区の代表の方と全員で記念のポーズ
ご苦労さまでした！

鮎川地区希望の星・仮設店舗

今回のボランティア活動で経済的支援の目的で、鮎川地区希望の星である16の仮設店舗が11月18日に開店したことを受け、ここをたくさん利用しようという計画を立てました。鮎川小仮設住宅の古内区長は店舗計画の中心的役割を果たしながら、前日の寿司店開店直後に47食分を準備していただきましたが、疲れも見せずとても喜んでくれてほっとしました。

新鮮でボリューム満点の寿司弁当のお礼を兼ねて、古内寿司店を訪問しながら各店舗でおみやげを購入しましたが、中でもびっくりしたのは流失したお酒が売られていたことでした。たくさんのお客さんが集まることを願いながら帰路に就きました。



仮設店舗「黄金寿司店」の古内さん
のご家族～大変お世話になりました

ボランティア参加者の感想～高校生の頑張りを称讃

バスボランティア第4弾活動についても従来同様、参加希望者がとても多く、期日前に募集を締め切りましたが、その後も希望者が殺到する状態でお断りするのがとても大変な嬉しい悲鳴を上げながらの準備でした。紅葉の季節でバスの手配が取れず、前から検討していた市福祉バス活用に至りましたが事前の整備等、絶大なるご協力のお蔭で無事に帰ってくることができました。ありがとうございました。

今回の計画は現地の人の顔が見える交流会の活動にしたいと願って準備を進めてきましたが、目的が果たせた活動になったと思います。しかし、ガレキ処理班については8カ月以上経過しているにもかかわらず震災直後に近い状態の活動となり、物理的な震災被害の深さと広さを改めて感じる活動でした。

◆ガレキ処理班の感想で良かった点として

- ・全体的な感想としてとても充実していてボランティア活動らしかった
これから参加し現地の役に立ちたい(多くの高校生)
- ・高校生の頑張りは素晴らしい。特に女子高校生の活躍にはびっくりした。
- ・危険な仕事もあったが年齢的にベテランとして役に立てたことが嬉しかった

一方反省点として

- ・道具など、準備不足だった
- ・まだまだこんな手つかずの状態が残っていることに驚かされた

◆泊浜地区炊き出し及び交流活動で良かった点として

- ・器材や食材などの準備が万全だったこと
- ・豚汁や梨に加えてワインなど豪華なメニューになったこと
- ・交流活動も活発に行うことができ雰囲気もとても良かった

◆鮎川小仮設住宅での交流会活動の感想で良かった点として

各教室リーダーの感想は前述したので一般の参加者の感想として

- ・多くの活動を準備し、どの活動も現地の人に喜んでもらいとても充実した活動だった
- ・みんなで歌う活動は参加者の心を一つにする力を感じとても感動的だった

反省点として

- ・時間が短く、残念だった

◆その他の感想として

帰りのバス内での活動の感想発表会は、とても勉強になることと温かい気持ちになる素晴らしい時間だったという感想が多く寄せられ事務局として嬉しく感謝の気持ちでいっぱいになりました。



バスの中での感想・交流会の様子

今後の龍 JIN ボランティア活動について

真冬を迎え、今後の活動については交流活動を中心に計画していきたいと考えています。但し、鮎川VCのスタッフが真冬でも計画するガレキ処理への協力依頼も検討していきたいと考えています。当面は12月11日の地元那須烏山市岩子仮設住宅の「復興岩子ありがとう感謝の集い」に全力投球していきます(本イベントはとても楽しく実施できました。報告は次号以降です)。

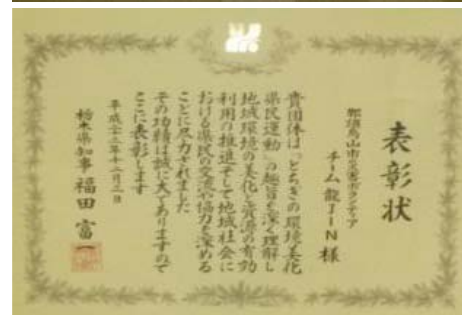
多くの皆様のご協力のお蔭で充実したバスボランティア活動が終了したことに感謝しながら筆を置きます。ありがとうございました。

付録： チーム龍 JIN が栃木県知事賞受賞

チーム龍 JIN のボランティア活動が那須烏山市の活性化に貢献していること、特に本年9月に発生した下境地区水害時のボランティア活動などが「環境美化県民運動」という見地からも高く評価され今回の知事賞受賞に至りました。

推薦してくれた市担当課から「県内外に活動範囲を広げ、被災した皆様に寄り添う環境美化、特に心の美化活動が今回の推薦理由です」と言われました。

今回、県全体で4団体表彰の一角を占めたことは龍 JIN メンバーの志が高いことが認められたのだと判断しています。これからも高い志で活動に邁進していきたいと思ひます。



受賞式の様子及び賞状

チーム龍 JIN 応援シール 一口千円募金協力をお願い



学業運



勝負運



金運



愛情運



厄除け